

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和6年4月) ～物価の上昇、実質賃金の減少等が響き、現状判断は続落～

- 景気ウォッチャー調査・4月調査の近畿地域の結果は、現状判断が48.1と前月比で2か月連続の低下(−2.4ポイント)となった。好不調の判断の目安となる50.0を下回ったのは20か月ぶり。一方、先行き判断も47.5と2か月連続の低下(−1.7ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンド市場は引き続き好調な推移となっており、百貨店やホテルを中心とした関連業界では、需要の増加がみられる。また、気温が一時、例年よりも高めの推移となったことで、早くも夏物商材が動いているといった声もある。その一方、ゴールデンウィーク関連では、連休中の各種売上の増加といったプラスの動きよりも、連休前の節約行動が目立つといった声が目立つなど、消費者の慎重な姿勢が続いている。
- さらに、物価やコストの上昇による悪影響が、引き続き消費全般の重しとなっている。一部では消費者が値上げに慣れてきたという声もあるものの、実質賃金の前年割れが続くなか、節約志向が月ごとに強まっており、スーパーや小売店を中心に需要の鈍化につながっている。
- 景気の先行きについては、引き続きインバウンドの増加が見込まれる中、百貨店やホテル、コンビニを中心に、売上の増加を期待する声が多い。加えて、今春の賃上げに対する期待の声も、スーパーなどの小売関連を中心に多く聞かれる。ただし、賃上げによる消費へのプラス効果については、半信半疑の声も少なくない。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は、依然として非常に強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。特に、今後も円安傾向の継続が見込まれる中、輸入コストの上昇による諸物価の高止まりに対する警戒感が強まっている。

### 「ゴールデンウィーク」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や っ て い る	都市型ホテル(客室担当)	・4月前半は高単価で推移していたが、ゴールデンウィーク前の動きが鈍く、単価を下げざるを得ない状況であった。一方、個人客、団体客共に、インバウンドは好調を維持している。
	変 わ ら な い	コンビニ(経営者)	・連休前である影響か、飲食店は客の動きが悪くなっている。
		衣料品専門店(店長)	・3か月前よりも来客数、単価共に少し悪化している。前年比も同様であり、ゴールデンウィーク前の財布の引締めが考えられる。特に、前年はゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルスが5類感染症に移行して好調となったため、その反動が出ている。また、物価の上昇への警戒感も考えられる。
	や や 悪 く な っ て い る	百貨店(店長)	・物価の上昇や生活様式の変化の影響か、お金の使い道がコト消費にシフトしている。ゴールデンウィークは家族でごちそうを食べるといった従来のスタイルから、外出関連の出費に移っている。なじみ客の買上は安定しているが、それに続く客層の消費が弱くなっている。来客数は4%から5%減少し、食料品の売上減につながっている。
		スーパー(店長)	・ゴールデンウィーク前の節約の動きか、お買い得商品の動きに、客が敏感になっている。

家計関連	なやや悪く なっている	家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、初の大型連休となり、需要が内向きから外向きにシフトするなど、店舗に足を運ぶ客が極端に減少している。必要最低限の商品購入となり、故障に伴う購入に限られるなど、厳しい状況となっている。
		旅行代理店（役員）	・店頭ではゴールデンウィークが発日となる予約が多かったが、前年と比べて件数は大幅に減少している。

### 「気温」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（売場マネージャー）	・桜の時期以降も、来客数は堅調に推移しており、気温の上昇とともにファッション関連商材の復調がみられる。国内客だけでなく、訪日外国人の売上も好調な状況が続いている。
		家電量販店（人事担当）	・4月の中旬から気温の高い日が続く、既にエアコンが動き始めている。また、エアコンのクリーニングも好調に推移している。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・気温が安定せず、カーディガンなどの注文が増えている。
		高級レストラン（スタッフ）	・徐々に暖かくなって、花粉症も落ち着き、客の気持ちも軽やかになっている。
		都市型ホテル（客室担当）	・桜の開花予想が3月20日前後で、満開が3月後半と発表された後、気温の低い日が続いて開花が遅れた。それに伴い、4月前半の需要が急速に高まり、直近も高単価での新規予約が増えている。
		変わらない	百貨店（販促担当）
	百貨店（マネージャー）		・地区全体の流れは大きく変わらず、大型客船の寄港で、化粧品などの消耗品を中心にインバウンド売上が3倍増と、売上全体を押し上げている。また、国内の富裕層は特選品や時計の購入はみられるが、前月の好調の反動で、前年比では微増となっている。一方、国内の中間層は、気温の上昇によって日傘やサンダルなどの夏物商材が動き出したものの、慎重な購買姿勢が目立ち、売上は前年並みにとどまっている。食品部門は相場に左右されるなか、小型店を含めて1品価格は上昇しているが、販売量の減少が続いている。
	百貨店（売場マネージャー）		・来客数は3か月前と比べて減少傾向にある。2月は前年比で9.4%の増加で、3月は2.7%の減少、4月も0.3%の減少となった。気温が例年よりも低く、来客数だけでなく、春物商材の動きも悪い。その一方でインバウンド売上は好調に推移しており、2月の前年比は219.8%で、3月は142.3%、4月は413.6%となっている。
	スーパー（経理担当）		・足元の売上は、天候の影響を大きく受けており、雨量や気温の変化に大きく左右されている。売上にとって、雨はマイナス材料であるが、気温が平年よりも高いことはプラスになるケースが多い。
	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）		・気温の上昇に伴い、UV関連や制汗剤、殺虫剤等の夏物商材の販売が上向いており、化粧品や化粧雑貨なども順調に推移している。一方、食品や日配品といった生活必需品は順調に推移しているが、衛生用品は減少が続いている。3か月前と比べて、来客数、1品単価は増加しているものの、買上点数が減少となった結果、客単価は横ばいとなっている。

### 「賃上げ」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	な良くなる	スーパー（企画）	・賃金の上昇を伴うインフレの進行により、景況感は底堅い推移となる。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・4月末頃から賃上げ効果が始まるため、しばらくは消費が上向くと予想される。
	やや良くなる	百貨店（マネージャー）	・現在は物価の上昇が先行しているが、今年度の賃上げ効果が出てくると、売上にも好影響が出ると予想している。
		乗用車販売店（支店長）	・金利の上昇やインフレの動きが進むなか、賃金も増加する。
		都市型ホテル（客室担当）	・インバウンド需要は、引き続き好調な推移が予想される。単価の上昇に対しても、国内の賃上げ効果が出ることを期待している。
	変わらない	スーパー（経理担当）	・賃金のベースアップや、ボーナス、実質所得の増加が好材料となる。一方、円安によるエネルギー価格や物価の上昇がマイナス材料となるなど、プラスとマイナスが交錯する。バーゲンセールへの反応が良いところを見ると、消費者の節約志向は強まっている。
		スーパー（社員）	・賃金の上昇による、客の買物意欲の高まりが期待されるが、今のところ余り変化はみられない。夏に向けて消費が活発になることを期待している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・賃上げに支えられた価格転嫁の広がりや人手不足の影響で、社会全体で物価の上昇が進み、消費対象の選別は一段と進む見込みであるが、今後2～3か月の景気への影響はそれほど大きくない。
遊園地（経営者）		・4月以降の賃上げや減税効果で消費意欲が高まると期待しているが、レジャー消費にまでお金が回ってくるかは、まだ半信半疑である。	

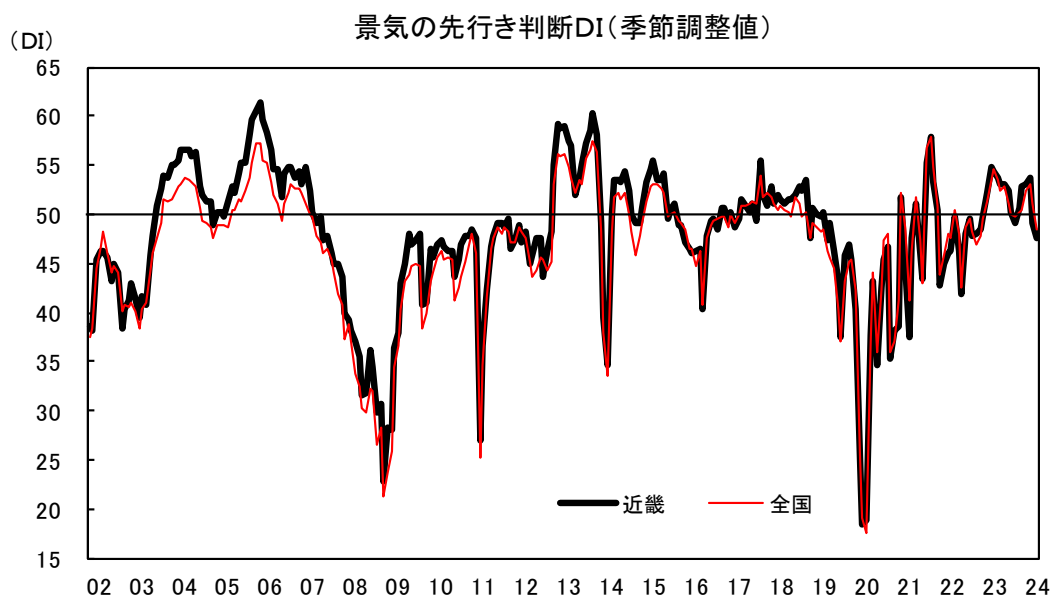
家計動向関連	やや悪くなる	百貨店（売場主任） スーパー（開発担当） その他飲食【自動販売機（飲料）】（管理担当）	・賃金の増加がインフレに追いついていない。年金世帯もインフレには非常に弱い ため、今後も消費者の節約志向が続くと予想される。 ・円安が進み、株価は上がっているが、賃金はそれほど上がらない。 ・円安の進行や国内での値上げ、電気代の上昇などが、賃上げ以上に支出へのダメージとなる。賃上げがあればまだよいが、パートで働いている場合は恩恵が少ない。
	悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・経営者からすると、最低賃金の上昇分をカバーするための経営の効率化が進まず、利益を削って賃上げに対応している。一方、雇用者からすると、物価の上昇に賃上げが追いついていないため、消費を絞るしかない。景気はインバウンド頼みであるが、インバウンドで需要が増えている業種は限られており、国内客の消費は減る一方である。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・企業全体に賃上げ気運が広がり、大企業のみならず中小企業でも賃上げが実現したが、物価の上昇と円安基調は続いているため、景気の判断は変わらない。
企業関連	やや悪くなる	通信業（管理担当）	・円安の影響で生活が更に圧迫されている。春闘による景気の活性化に期待したが、物価の上昇による買い控えなどで、景気は横ばいか鈍化傾向となる。
	変わらない	職業安定所（職員） その他雇用の動向を把握できる者	・事業所を訪問すると、不況の業界は一部でみられるものの、中小企業も厳しい状況で賃上げを行うなど、求人条件の変更に比較的応じてきている。 ・賃上げによる消費マインドの改善や、一部の自動車メーカーの生産再開により、景気の先行きに楽観的な声が増えている。
雇用関連	変わらない	人材派遣会社（役員）	・賃金のベースアップを実施する企業が増えたようであるが、企業規模を問わず、必要な人材の確保が厳しい状況が続いている。また、インフレ懸念や不安定な世界情勢が続いている状況から、当分は景気の押し上げが進まない可能性が高い。

### 「円安」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	くやなる良	一般小売店【珈琲】（経営者）	・欧米からの観光客による来客数が増えているなど、円安の恩恵を受けている。
	変わらない	一般小売店【花】（経営者）	・円安の影響で、インバウンド需要に関係のない業種には景気上昇の兆しは見当たらない。
		百貨店（売場主任）	・円安の進行で、更にインバウンド需要が増加する可能性はあるが、いつまで続くかは不透明である。一方、物価が上昇する可能性が高いため、生活防衛意識が更に高まると予想される。国内客の消費が上向き要素は余りなく、現状と大きく変わらない。
		百貨店（企画担当）	・桜のシーズンが過ぎた4月後半になっても、インバウンドの売上は好調を維持している。円安が続くようであれば、インバウンドの動きに大きな変化はないと予想される。一方、国内売上がどうなるかが少し不安である。
		百貨店（販売推進担当）	・来客数は増えているが、購買率は前年をやや下回っている。これ以上円安が進めば、更なる価格改定などで購買意欲の低下が予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・円安やインフレの環境が続いており、今後も原材料価格の上昇による商品の値上げが懸念される。特に、婦人服を中心とした衣料品や婦人用品の売上が減少傾向となる見込みである。食料品は比較的好調であるが、利益率の面で更に厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・今後も円安や物価の上昇傾向が続けば、消費が上向き可能性は低い。ただし、レジャーやリゾート需要はかつての水準に回復しているため、客に関連商品をアピールできれば、売上のけん引役になる。
		スーパー（経理担当）	・賃金のベースアップや、ボーナス、実質所得の増加が好材料となる。一方、円安によるエネルギー価格や物価の上昇がマイナス材料となるなど、プラスとマイナスが交錯する。バーゲンセールへの反応が良いところを見ると、消費者の節約志向は強まっている。
		スーパー（販売促進担当）	・円安が続く状況が予測されるなか、更なる商品単価の上昇が懸念されるため、楽観視はできない。
		コンビニ（店長）	・円安が続いている間は、外国人客が減ることはない。大阪・関西万博の頃までは、今の状態が続くと予想される。
		家電量販店（営業担当）	・円安で海外客の動きに追い風が吹き、インバウンド相手の職種もまだにぎわっているが、国内客相手の仕事では、円安による値上げの動きが目立っている。
		その他専門店【宝石】（経営者）	・円安による物価の上昇が、消費者には響いている。物価面が改善されない限り、消費に対する意欲は変わらない。
		その他小売【ショッピングセンター】（総括）	・円安によるエネルギーコストの上昇などで、物価の上昇に拍車が掛かることが懸念される。
		旅行代理店（店長）	・海外旅行の問合せは週末を中心にみられるが、円安の影響もあり、相談だけで終わるケースが多い。
		旅行代理店（支店長）	・ゴールデンウィークが終わり、夏休みの旅行を本格的に検討する時期となるが、過度な円安に直面している。旅行自体をやめなくても、行き先を近場にする客や、期間を短くする客が増加している。
競輪場（職員）	・前年はコロナ禍の収束でほぼ全ての制限がなくなり、消費が伸びた。今年は円安が進み、株価などが上昇しているが、商品の値上げラッシュが続いているため、世間一般には景気が良いという実感はない。		
その他レジャー施設【複合商業施設】（職員）	・4月も食料品の値上げが実施され、節約志向が相当強くなっている。為替も更なる円安の進行で、先行きへの警戒感が強まる。		

家計動向関連	やや悪くなる	スーパー（開発担当）	・円安が進み、株価は上がっているが、賃金はそれほど上がらない。
		衣料品専門店（販売担当）	・円安ドル高で、様々な商品価格や物流コストが上昇するため、店頭価格を値上げしていく方向となる。今後はますます売行きが悪くなると予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・国内的には政権与党の政治資金問題がまだ解決しておらず、円安も進んでいる。また、ウクライナやガザ地区での紛争も解決していない。物価の上昇が続き、社会情勢も安定していない状況から、しばらくは景気が良くなるとは考えられない。
		一般レストラン（経営者）	・一時的な集客の増加が一旦落ち着くため、大規模や中規模的な団体利用は減少すると予想される。さらに、来月からの値上げで打撃を受ける商品も多く、利益的には非常に厳しい。値上げは徐々に進めている状況で、思い切った値上げは、客の収入がまだ上がっていないため困難である。やはり全体的に景気が回復するには、給料のアップと円安の是正による経済の安定が必要である。
		一般レストラン（企画）	・売上は一時的に良くなったが、円安による原材料価格や光熱費の高騰、補助金の減少による影響が経営を圧迫しており、この傾向は当分続くと予想される。また、人手の確保が更に厳しくなるなか、人件費の上昇はもちろん、営業活動にも支障が生じる可能性がある。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・円安の進行や国内での値上げ、電気代の上昇などが、賃上げ以上に支出へのダメージとなる。賃上げがあればまだよいが、パートで働いている場合は恩恵が少ない。
		旅行代理店（役員）	・物価の上昇により、各種の運賃や宿泊料金が上がり、旅行代金が高騰している。今後の予約の中心となる夏の旅行は、家族での需要が多いため、家計の圧迫による旅行の見送りも懸念される。円安もしばらく続く見通しのため、海外旅行の需要が大幅に増えることはない。
		通信会社（経営者）	・現在の円安傾向は長期に及ぶことが予想される。
		通信会社（営業担当）	・円安の進行により、食料品や生活必需品の価格上昇が予想されるため、客がより安価な商品を選択する可能性がある。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・円安傾向で物価はまだ上昇が続くため、少しずつ消費が下降気味になる。
悪くなる	家電量販店（企画担当）	・円安の動きに伴い、インバウンド消費が観光や飲食関連の売上を押し上げる一方、家電やリフォーム関連は価格の上昇に伴い、購買意欲がダウンしている。住宅省エネ2024キャンペーンによる、エアコンや内窓関連の需要増加に期待したい。	
	住関連専門店（店長）	・輸入では円安の大きな影響を受けているほか、インテリア業界であるため、仮に金利の引上げがあれば、業界自体で受注減となり、打撃を受けることが懸念される。	
企業動向関連	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・先の見えない急激な円安が、輸入業者にとっては利益の圧迫につながるため、値上げを考えなければならない時期に来ている。現在は注文も入っているが、値上げによって注文が減れば、売上、利益共に減少することになるものの、先行きへの希望を持って進めたい。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・国内客の消費マインドは依然として低調な見込みであるが、外国人観光客は円安の影響で更に増える予想される。
	変わらない	食料品製造業（営業担当）	・現在は円安の影響で外国人観光客がかなり増え、それによる波及効果が出ているが、ゴールデンウィークを過ぎれば少し落ち着くため、景気はそれほど変わらない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・企業全体に賃上げ気運が広がり、大企業のみならず中小企業でも賃上げが実現したが、物価の上昇と円安基調は続いているため、景気の判断は変わらない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・円安による物価の上昇が続いており、先行きは不透明である。
		司法書士	・円安や物価の上昇などで節約に向かわざるを得ないなか、今後は好材料も見当たらないため、現状維持となる。
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・円安の更なる進行に対して、原料価格の上昇に伴う価格転嫁ができていない。また、転嫁しようとしても、取引先が受け付けられないケースが見受けられる。
		輸送業（営業担当）	・円安が続くと商品の値上げが予想されるため、今後はやや悪くなる。
		通信業（管理担当）	・円安の影響で生活が更に圧迫されている。春闘による景気の活性化に期待したが、物価の上昇による買い控えなどで、景気は横ばいか鈍化傾向となる。
	悪くなる	金融業〔投資運用業〕（代表）	・過度な円安の継続が、日本経済には致命的な影響になると予想される。変動相場制においては、中途半端に為替介入を行っても効果はなく、今後は不安である。
その他非製造業〔電気業〕（営業担当）		・円安が進んでおり、企業活動が向上かない。	
雇用関連	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・物価の上昇や円安の進行など、給与所得者ではない学生の家計状況が良くなる材料が見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・株価は急速に上昇したが、円安ドル高の状況はますます進んでおり、物価の上昇も重なって、生活水準の維持が困難になっている。物価の上昇に合わせて、給与の水準も上がらない限り、景気が良くなることはない。
	変わらない	職業安定所（職員）	・宿泊業で求人数が増加傾向にあるなか、人手不足によって客室の稼働率が下がっている事業所もある。すぐには人手不足の解消による稼働率のアップは見込めないため、現状は変わらないと予想される。また、円安による今後の影響にも注目している。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年				23年								24年												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
現 状 判 断	近畿	48.5	50.7	50.7	38.8	43.3	50.8	51.3	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	50.1	53.5	50.5	48.1
	(全国)	48.3	51.8	51.8	43.0	45.5	49.5	51.8	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2	51.3	49.8	47.4
先 行 き 判 断	近畿	46.3	49.9	46.3	41.8	48.0	49.6	47.9	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1	53.8	49.2	47.5
	(全国)	47.5	50.4	48.1	42.6	48.8	49.6	48.2	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5	53.0	51.2	48.5

※季節調整値